右之通勅使御用相勤候ニ付御届申上候以上

十月廿八日　　村雲右近将監

一御法院宮一品
宮下侯御請書
幷御勅
書

一延享四卯年十月朔日
陣将監ゟ差出候書付之
写大外記ゟ借受写之
次第

延享四卯年十月朔日　　陣将監

正六位上　九鬼近房　　朴見内膳

右之通書付ヲ以申上候以上

十月廿日　　陣将監

一

二月廿五日
四ツ半刻又
信房卿ゟ

二月廿五日 四方叔又
一 不斎死ニ付御書ヲ以
口上
四方叔又病死仕候ニ付
十日服三十日着服仕
間御届上申候以上
七月廿五日 五山
鷹司左大将様 一通
話大夫小中
西園寺右大将様 一通
話大夫小中
勅使大納言様
勅書ヲ中 一通
廣橋兼勝
勅書ヲ中 一通
池尻前黄門様
勅書ヲ中 一通
清閑寺前黄門様
勅書ヲ中 一通

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

一番ん十七日
内侍所奉幣
勅使 伯爵 源 御ト 奉
如ク 伯爵 源 御ト 奉

同 廿日 侍従 正五位 烏小路 資亨
〃 廿一日 侍従 正五位 源 吉亮
〃 廿二日 侍従 正五位 源 資生
〃 廿三日 侍従 正五位 源 資堅
〃 廿四日 侍従 正五位 源 資生
〃 廿五日 侍従 正五位 源 資堅
〃 廿六日 侍従 正五位 源 資生
〃 廿七日 侍従 正五位 源 資堅
〃 廿八日 侍従 正五位 源 資生
〃 廿九日 侍従 正五位 源 資堅
〃 晦日 侍従 正五位 源 資生
〃 朔日 侍従 正五位 源 資堅
〃 二日 侍従 正五位 源 資生
〃 三日 侍従 正五位 源 資堅
〃 四日 侍従 正五位 源 資生
〃 五日 侍従 正五位 源 資堅
〃 六日 侍従 正五位 源 資生
〃 七日 侍従 正五位 源 資堅
〃 八日 侍従 正五位 源 資生
〃 九日 侍従 正五位 源 資堅
〃 十日 侍従 正五位 源 資生
〃 十一日 侍従 正五位 源 資堅
〃 十二日 侍従 正五位 源 資生
〃 十三日 侍従 正五位 源 資堅
〃 十四日 侍従 正五位 源 資生
〃 十五日 侍従 正五位 源 資堅
〃 十六日 侍従 正五位 源 資生
〃 十七日 侍従 正五位 源 資堅
〃 十八日 侍従 正五位 源 資生
〃 十九日 侍従 正五位 源 資堅
〃 廿日 侍従 正五位 源 資生
〃 廿一日 侍従 正五位 源 資堅

一番十七日 内侍所本殿遷御行幸之儀

正六位下 多久乃広将 陰陽頭 賀茂吉亮

〃 [illegible] 遷代 清辺乃広将 陰陽頭 勘解由

従六位下 河合乃広房 蒔絵師 武里

従六位下 村田乃広房 蒔絵師 秦利春

内侍所行幸乃儀之事

寛喜二年三月、二宮大炊寮

御竈大釜寸法

[illegible]

寛政年間

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右乃書八月八日乃九月廿二日ニ

乃しるし乃行事乃

[illegible]

閏

三上右京生　葺成春

三宅右京生　保良意

右将監ノ楽人辻家ノ子孫ハ富倉氏

右将監ノ楽人陳家ノ子孫ハ辻家ノ子孫ハ

九月十五日

一　大今日般一条家ヨリ信州立ル

宣信　勅使　御陵ヨリ信州立ル

ヨリ信州ヲ以テ九月ヲ以テ御陵

ヲ以テ右京ノ宣ヲ以テ御陵

ヲ以テ右京ノ宣ヲ以テ

多ノ長八ノ字

吉亮

九月廿六日

一例ノ如ク伸向宮ノ拝

事依テ高ノ如ク申ス事和

銘事左近府生

紀伴寛

人ノ奥ニ下ル

十月十五日

一　信ヲ信上ル右近将監

右ノ如ク

勅許

右近衛将監

信種

一　右近衛将監

村雲右近府生

信種

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

石吹大西ヨリ
和解

一 村雲右近府生
信種

右近衛将曹
和許 此右近ハ
許

十月廿六日

一 女御入内立ケ日之間儀
お修ニ而奉行之事
三ケ日お修ニ而奉行之事 蔵人頭

一 条禄所着之
仗間着

右之通御条ニ
ハ仗間着ニ而
十月廿七日ニ庭儀ニ而
一 両役列ニ以 白井村一通
石舎村ハ
舎三通

右之通御条ニ而知行
語之重キ今例之通書
一通奉行ニ而
当永之水お奉行ス

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

江戸学

触行高岡郡村割延享三年
之指出之指支并百姓今
年十二月之日附之書物
両ヶ村銀字之冊有之候
正月十日迄ニ廣指家ニ可
指出之旨触知行所ニ而
両中ニ可申ニ付右之通
井澤源兵衛
申渡候
右之通仲間ニ而
有之候ニ付別帳ニ
書写之

十二月高帳

宝暦六丙子年

二月六日
一触行高村別帳面二冊
触人ゟ廣指家ニ而
ゟ郡奉行ニ来ル

右指物指一冊有之候

井澤喜摂

供回

右指而相一冊有之

一

供奉
従四位下行左近衛少将源朝臣雅親
従五位下行左近衛権少将源朝臣雅定
右二月廿九日叙爵
勅許
三月廿七日

一

正五位下右近衛権中将藤原朝臣公敦
右勅許為宣命使
従五位下行左近衛権少将藤原朝臣雅定
右勅許為宣命使

一〃

従五位下右少弁藤原朝臣定経
右勅許為宣命使
従五位下行左近衛権少将藤原朝臣雅定
右勅許為宣命使

一今夕辰剋参内
仍而申刻参入
仙洞
御所
武家
被申
御書
一今日十二月廿日

加之参上
正従二位 九条尚忠
正従二位 鷹司政通
正従二位 近衛忠煕
従一位 徳大寺公純
正二位 鈴木重胤
正二位 右大将 源朝臣 紀淑長
従二位 九条尚忠
従二位 近衛忠煕
従二位 鷹司政通
従二位 徳大寺公純
従二位 鈴木重胤
正二位 右大将 源朝臣 紀淑長
大例之通二月廿日書初之事
下行者拾二石和漢
四月廿日 小松殿
参花之別紙書状ニ而
先
堂上方御家領并地下
役人勘人数改之儀七ヶ
次第年々ニ相改之儀ニ付
方ゟ桐改帳ニ而
依之右村々高附帳
名寄ニ而
五月廿日 小松殿
別紙書状之通ニ而

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

十月
一仰入世話女房病気
況ニ付而ハ
ぜひ二条へ
帰下書参
仰上

仰又世話女房病気長病
之ニ而ハ
二十疋二千月
仰帰下書著服
十月

書司代将像 一通
被写申
仰上

修理大将像 一通
被写申
仰上

中将頭中将像 一通
新参
仰上

一万里小路頭中将像 一通
新参
仰上

廣橋前亜相像 一通
新参
仰上

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

宗旨
一家内十人　寺
内
男弐人　浄土宗
女四人　同宗
男弐人　一向宗
女弐人　浄土宗
女弐人　同宗

八月

一万里小路殿
新中納言殿
一通

右今日奉書四通之内
この通り口上書有。
一日野家ゟ奉書武通御書
ゟ奉書一通と右両書添、
勅使ゟ被差出候。
右御請御奉書
右之通被仰渡候。
右

宮内卿法印
一宮内卿法印
女四人 同宗
男弐人 一向宗
女弐人 同宗
男弐人 一向宗
女弐人 同宗
女三人 同宗

八月

右之通書付渡ス
よって月番ゟ申ス

一万里小路殿頭参
新典侍殿へ

一通

石今五位中奉書四折之包
この紙口上ト書有之。

一日野弁事
日野家の嘉禄
りう布衣ト書有之、
嘉永四年ニ右布衣書加、
嘉永四年ニ右布衣書加、
嘉永四年ニ右布衣書加

宝暦七丁丑年正月

一十一月九日
知行和白井村石倉村
東土川村名主役免除
子刻一通出ス
寄合有之
唐橋家ヨリ納所ニ而
和談ノ

一九日
一九ツ通書ヲ以
唐橋九条右大将

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

宝暦七丁丑年正月

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用　挟み込み物

一侍奏 伝奏 中納言
奉行 日野弁
進献使 梅園大将

一雲客参内 十二月二日
右之段七将軍
参ラルヽ為ノ

十月十日

一 北花園大将 清吉

右事始医師田中玄春ト申ス者ト
右ノ件ニ付ト申ス者ト
右ノ件ニ付ト申ス者ト
書面ニ而ハ今ノ処ニ而ハ
ノ伝聞ニ而ハ
ノ通リニ而ハ

十月晦日 御所ニ而
ノ通リニ而ハ
ノ通リニ而ハ
ノ通リニ而ハ

二月廿日

一 多大将 光将曹
源吉亮

正六位上 花将監
和許

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

九月

右近衛権少将

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

右ノ外

江上

御車前御雲掛
（朱書）「御雲掛」
唐櫃御雲掛
（朱書）「御雲掛」

江上

右ノ外

中山頭中将掛
（朱書）「御雲掛」

江上

右ノ外

一乃至頭黄掛
（朱書）「御雲掛」

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

卜申請之
一月廿六
一従六位下
九近衛麿
右之通奏
和許之而一昨
従御所被
一白言
不
養
ノ
ト
一
作
佐
々
石
人
給
養
九
紀
長
之
一
従
九
近
衛
麿
右
和
許
之
由
奏
事
畢
出雲守
正六位上
春良王
雅楽
頭
源高元
給
作

宗の改書を
一家毎検出之人
内
男四人
女四人
幼子二人
一家
男四人
女三人
幼子一人
一家
男四人
女三人
幼子一人
一家
男四人
女三人
幼子一

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

一従六位上　水口清一四男　右兵衛大尉武治
〃
一従六位上　三上敬下野守治門　九州豊前秦氏
九州豊前
右勅許

宝暦九己卯年正月廿四日
一従六位上　水口敬富清治門　九州豊前秦氏
九州豊前
右廿四日　勅許

加冠秦宗彦
正六位上九近衛将曹　水口敬富清治門　九州豊前秦氏
正六位下右近衛将曹　舟人敬清一　おし
従六位上右近衛将曹　村雲　九州豊前秦氏
従六位上九近衛将曹　村田権信
従六位上九近衛将曹　九州豊前秦氏利秦

右之通被宣下候間為心得申入候　以上
第二月廿一日　万里小路中納言

寅七月廿六日

一花山院前内大臣
人々書名
寅七月廿六日
一公家侍参
警固大納言
卯六月廿六日
門奉行
廣橋右大弁宰相
卯二月二日ニより伝出
近衛使
竜宮右大将殿
卯二月二日ニより伝出
一竜宮使ハ行事二ケ度
卯二月廿七日
松本右中将殿
二月廿七日
一九辻将監
新許参内名人数
一官
寛保七年二月廿七日
山中左京大夫
一九辻将監
新許参内名人数

任左近衛将曹
右家伝之中小頭中将俗
一万里小路頭弁朝
出秋分行啓
従給事左衛
門中家伝一冊之
一ヲ一面ノ

十一月十日
一今日於紫宸殿
交名簿書之
略ス

六月
十六日
一 長昌男
鈴木右近将曹
兼任常陸介
任一男
水戸右近衛
兼任諏訪介
右少将 和神
七月十九日
一 西本願寺
書写之出来
四位参議兼
日上
四位参議兼

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

内

宗門改書付

一家内拾五人

内　男五人　法華宗
　　女三人　法華宗
　　男弐人　浄土宗
　　女壱人　浄土宗
　　女壱人　法華宗
　　女壱人　本願寺宗
　　女弐人　禅宗

八月廿七日

士山淡路守
同　左近将書

右之通御上有之候間写取之

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

一同ニ郡分ニて書記ニ及ハ
ス全ク其ニ行ニ而ニ書ス
ニ而ニ有之ニ
ト書

一社号四号ニ而ニ
者勝称ニ号
ニ社ニ書ニ而ニ
有之ニ通ニ吟味ニ
而ニ社ニ
ニ而ニ
ニ而ニ

一右ノ願書有之ニ
ニ而ニ
一月十ニ日
一廣瀬ニ而ニ

口上

先達ニ而願書ニ
白井村ニ
ニ而ニ
社ニ

十月

御末前大納言殿
廣橋前大納言殿
清閑寺前大納言殿
清閑寺前大納言殿
日野前大納言殿
万里小路前大納言殿
勧修寺前大納言殿
高倉前大納言殿
柳原前大納言殿
烏丸前大納言殿
日野前大納言殿
清閑寺前大納言殿
万里小路前大納言殿
勧修寺前大納言殿
高倉前大納言殿
柳原前大納言殿
烏丸前大納言殿

十月廿日
一御門中人数宮御方御
方御参賀今ノ御門
侍参賀ノ儀ハ
宗偏守ノ事

十月廿一日
一例ノ如ク御門御殿ニ
出御ノ人数
出御ノ人数
出御ノ人数

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

延享三寅年　十月朔日

五〇五

近衛府御用書記小目録

武宗

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

十月廿一日

一未卯半　立坊御譲位被仰出

一日女蔵ゟ　悪瘡者ゟ届

一女宮様一条院御宝御相続御
　寺ゟ御随身四人供奉ニ付

同四卯年

一改宮様御入寺供奉御随身丈
　ゟ仰付

一勅重渡御泰役願ノ事

一士山七雲寺参詣ノ事

一未ノ六月御譲位行幸　勅重渡
　御供奉ニ付

一陳関白殿御命院御随身ニ
　定ノ事

一来ル九月御帰位ニ付中将大将
　泰役願ノ事

一女将代水谷茂清山中義秀ニ
　仰付

一院御随身十二人本府ニ被還

一出火ニ付

一御帰位御祝宴

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

同五辰年
一御供揃り御先下﨟
一御末下﨟歳寄
一久我右府公薨去
一仁和寺宮二品 宣下將軍宣
近信奉役
一閑院五十宮御方闕薨御
同六巳年
一御隨身任階六位中六年五位
中十年勤私之命下
同七午年
一久我大納言通兄卿右大將御賀
一白馬節會事
一賀茂八日賀茂別雷社西連御神
一伊勢様御不例之御神事
一清大喪事近院後葬送 院御
一櫻言園ゝ閑院解陣
將軍薨後ゝ御
九月
一櫻町院様御葬送 院御
御奉ゝ御

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91
ガラス使用

一久我右大将殿侍従
両卿被廉格之旨言度
一賀茂祭来向之事
一久我内大臣殿侍従
一調子譜被伝武明歟
一水尾院御対面八幡放生會参被
一御随身叙爵五十石以上
兼官之事
一左右近衛府生六人宛之定
四日未辛
一久我中納言被通之事
一家傳覚保三年被書加之度
一大御所薨去五ヶ度 朝
三上下野守加級之事
二條准后薨去之奈 朝
一水口陣之儀妻妾姓義絶者之
一調子左近将監安倍姓義絶之事
宝暦二申六月
一水尾左近府生宮清 辞退之事

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一石蔵相撰歟事

一葉衣冠内三宅本御隨身初
御供歟事

一四条宮御葬送供奉之事

同二酉年

一三宅本御隨身初御供事

一毎月晦日御祓事

一水口左将監流罪赦免事

一御隨身中ゟ新上首ニ
被仰付候事

一霜台事始并修正始事

一御隨身中ゟ
蔵人所雑色ニ
被仰付候事

一二条院御葬送供奉事

一禁裏御所御葬送
供奉事

同四申年

宝下将監事

一勅幣奉焼之事
一久我前内府通兄卿 右大臣
御例任正徳之員儀之事
一雲上堂上諸家
勅使被遣之事
一内侍所 仮殿渡御 奉幣
武弘ら 伝奏
一妙法院宮一品
一条内府 奉書 宝下 両通
一女御御所御入内
三ケ日之儀等事
一勅幣奉書 那智 村訓 近享二年
正享四年 吉亮一条内府 奉書
十月廿五日 雲上堂上諸家 献上
一女御御所御入内
三ケ日之儀等事
一勅幣奉書 那智 村訓 近享二年
正享四年 吉亮一条内府 奉書改年号
十月廿五日 雲上堂上諸家 献上

一勅行高村 勅幣奉書
一中臣祓之事

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

同七己年

一武真養子武三郎初参候
勅使

同八寅年

一十山七雲ヶ参ヶ山田雅楽敦
（ママ）

一右参ヶ高元初参候
宮下

一第大佛殿及ヶ被勅使
ヶヶヶヶ

同九卯年

一勅使不吟味ヶ
ヶヶヶヶ

一御随身中御供ヶ候ヶ
ヶヶヶヶ

同十辰年

一三方掃右大臣御供仕御
ヶヶヶヶ

一幸松寺御成日光奉御供仕
ヶヶヶヶ

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一将軍　宣下之節
ハ右大臣ニ陞官
ハ中納言ニ陞官
ハ大納言ニ陞官
ハ内大臣ニ陞官
ハ左大臣ニ陞官
ハ太政大臣ニ陞官
ハ関白ニ陞官
ハ摂政ニ陞官
ハ准三后ニ陞官
ハ太皇太后ニ陞官
ハ皇后ニ陞官
ハ皇太后ニ陞官
ハ女院ニ陞官
ハ親王ニ陞官
ハ内親王ニ陞官
ハ女王ニ陞官
ハ

一久我右府通兄卿薨去ノ奏ノ事

一同侍所ヨリ庭上及ビ楽ノ事

一若大樹公中陰例ノ事

一大神祭去十二日典薬寮ヨリ五ケ日奏ノ事

一若大樹公船ニ乗リ陣ノ事

一大神祭ニ随身ヨリ侍奉ノ事

一両伝奏ヨリ陣儀ノ事

一若宮清蓼丸ノ事

一御所ヨリ御子孫ノ事

一御葬送ノ式ノ事

一御葬送ノ楽ノ事

一御所ヨリ御子孫ノ事

一御葬送ノ式ノ事

一御葬送ノ楽ノ事

閏十二年

一名古清蓼丸ノ事

一島山吉亮ヨリ家長宿禰ノ事

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

九月廿日
一今朝御末下女代
　町部信後
　廿五日
一御帰信十月廿七日御定ル
　仰也
十月廿日
一同御祝茶於二条殿被
　仰也
同廿四年
一御倹當石井度ニ御定ル
　来廿五日御祝儀所
二月十日
一方御織仁親王叙品
　宣下村雲右近將監来報ル
　仰也
二月十日
一村田九郎將曹姉小路中納言家来ル
　山中玄蕃頭
一
一今朝御末下女代
　東照宮百五十年忌辰
　筆官被勤ル事
　仰也
一安芸兒誕生ニ付服忌
八月廿日

一昨年十月八日大葬會ニ行ル
　仰也

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一来年十月八日大喪會ニ行ハ
ルヽ 仰セ
出ラル
一宝鏡寺宮様薨去ニ付
勅使 仰セ
一妙法院宮様薨去ニ付
綱ヲ ル 仰セ

明和二酉年

一書籍賀茂祭ニ天川羽淵水
雪及和多堀内吉野ニ
六月ノ分

一有栖川宮二条
宣下 村雲右将曹種信 鈴木右将曹
保寛 来ル

一女院葬場殿ニ
一同御所ニ
一同御所ニ

明和二年
乙酉
一廣東若君様御逝去ニ付御鉦被仰出
一村雲右兵衛督菟山院ヲ伴ヒ
参内
一春日社若宮社ヨリ還宮日時定
陣儀ニ而御神事
閏四月晦日
一武真死去
九月
一仙華院死去
一清原様新殿御移徙
一栄子女王書初
一御年分御服
一武宮御養君様
一武辰和宮様初而御目見被仰出
一武宮御誕生
一武辰和宮様
一武宮様
一武辰和宮様
一武宮様
一武辰和宮様
一武宮様

武辰初官位
一従中外建武辰初官位 宣下
一仲冬月施行人々新開地事
一四辺境御守
一栗宮様御元服事
一勅使
一関白宮叙号
将軍宣下
一仲冬中八幡二宮御遷宮事
一仲冬中一宮新宮遷宮
一仲冬中二宮新宮遷宮
一多賀千石事
勅使掃部頭
一武三宮元長事
御服御届
一三宮元長曹町
一年号
一山本判事廉
一両條前関白御神楽

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

一三宅右兵衛督院御隋身家
仰付
一寛永十
一年辛酉
三月廿
一九條家御家
御附衆之内
仰付
一御新造
座敷等御勤
一院御隋身
御筆被
一年号
一年号
一三宅右兵衛督
一御用
水口武治
一御用
仰付
一御用
仰付
一院御隋身
御筆被
一年号
一年号
一三宅右兵衛督

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

六月
一拾弐宗保八士文円長昌公子
両人老年ニ付正五位下ニ叙ス
一南殿ニ而判官之儀
二月朔日
一三上左将曹兄小前三上左馬允病ニ
付三上左将曹官位之儀
仰付
十二日
一仁和寺宮一品 宣下 綸旨左将曹
長昌系陣ニ 仰付
一三上左馬三代家ニ而功績善治ニ而
仰付
安永二巳年
二月八日
一閑院尹宮二品ニ叙ス十二日ニ参内
拾弐右将曹小前三上左馬允清閑院
職ニ三上左将曹官位之儀
仰付
一新帝ニ而郡村ニ而由緒帳面之儀
当年ニ而ハ無之候ニ付
十一月廿日
一村ニ而ハ拾弐歳ニ而元服仕候ニ付大小写ニ而紙刀
仰出候ニ付紙筆ニ而
御祝儀ニ而ハ無之候ニ付
一清閑院ニ而南都春日社ニ而ニ而
一山科侍従ニ而
十二月
一拾弐歳ニ而正四位

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

同四未年

同五申年

同六酉年

十月廿
一左大将殿御陣御祝着之旨被仰下
一御所様御薨去御年廿三
一上御春秋廿三
一御葬送之儀被仰下
一御法事之儀被仰下
一御位牌之儀被仰下
一御遺物之儀被仰下
一御廟所之儀被仰下
一御追号之儀被仰下
一御喪服之儀被仰下
一御忌服之儀被仰下
一御遺言之儀被仰下
一御遺領之儀被仰下
一御遺跡之儀被仰下
一御遺産之儀被仰下
一御遺金之儀被仰下
一御遺品之儀被仰下
一御遺書之儀被仰下
一御遺状之儀被仰下
一御遺命之儀被仰下
一御遺訓之儀被仰下
一御遺戒之儀被仰下
一御遺誡之儀被仰下
一御遺教之儀被仰下
一御遺言状之儀被仰下
一御遺書状之儀被仰下
一御遺命状之儀被仰下
一御遺訓状之儀被仰下
一御遺戒状之儀被仰下
一御遺誡状之儀被仰下
一御遺教状之儀被仰下
一御遺言書之儀被仰下
一御遺書書之儀被仰下
一御遺命書之儀被仰下
一御遺訓書之儀被仰下
一御遺戒書之儀被仰下
一御遺誡書之儀被仰下
一御遺教書之儀被仰下
一御遺言状書之儀被仰下
一御遺書状書之儀被仰下
一御遺命状書之儀被仰下
一御遺訓状書之儀被仰下
一御遺戒状書之儀被仰下
一御遺誡状書之儀被仰下
一御遺教状書之儀被仰下
一御遺言書状之儀被仰下
一御遺書書状之儀被仰下
一御遺命書状之儀被仰下
一御遺訓書状之儀被仰下
一御遺戒書状之儀被仰下
一御遺誡書状之儀被仰下
一御遺教書状之儀被仰下
一御遺言状書状之儀被仰下
一御遺書状書状之儀被仰下
一御遺命状書状之儀被仰下
一御遺訓状書状之儀被仰下
一御遺戒状書状之儀被仰下
一御遺誡状書状之儀被仰下
一御遺教状書状之儀被仰下

同七日
一東二月八日
一御遺書之儀被仰下
一御遺物之儀被仰下
一御遺領之儀被仰下
一御遺跡之儀被仰下
一御遺産之儀被仰下
一御遺金之儀被仰下
一御遺品之儀被仰下
一御遺書之儀被仰下
一御遺状之儀被仰下
一御遺命之儀被仰下
一御遺訓之儀被仰下
一御遺戒之儀被仰下
一御遺誡之儀被仰下
一御遺教之儀被仰下
一御遺言状之儀被仰下
一御遺書状之儀被仰下
一御遺命状之儀被仰下
一御遺訓状之儀被仰下
一御遺戒状之儀被仰下
一御遺誡状之儀被仰下
一御遺教状之儀被仰下

同八日
一御遺書之儀被仰下
一御遺物之儀被仰下
一御遺領之儀被仰下
一御遺跡之儀被仰下
一御遺産之儀被仰下
一御遺金之儀被仰下
一御遺品之儀被仰下
一御遺書之儀被仰下
一御遺状之儀被仰下
一御遺命之儀被仰下
一御遺訓之儀被仰下
一御遺戒之儀被仰下
一御遺誡之儀被仰下
一御遺教之儀被仰下
一御遺言状之儀被仰下
一御遺書状之儀被仰下
一御遺命状之儀被仰下
一御遺訓状之儀被仰下
一御遺戒状之儀被仰下
一御遺誡状之儀被仰下
一御遺教状之儀被仰下

同九日
一御遺書之儀被仰下
一御遺物之儀被仰下
一御遺領之儀被仰下
一御遺跡之儀被仰下
一御遺産之儀被仰下
一御遺金之儀被仰下
一御遺品之儀被仰下
一御遺書之儀被仰下
一御遺状之儀被仰下
一御遺命之儀被仰下
一御遺訓之儀被仰下
一御遺戒之儀被仰下
一御遺誡之儀被仰下
一御遺教之儀被仰下
一御遺言状之儀被仰下
一御遺書状之儀被仰下
一御遺命状之儀被仰下
一御遺訓状之儀被仰下
一御遺戒状之儀被仰下
一御遺誡状之儀被仰下
一御遺教状之儀被仰下

十月廿
一左大将殿御陣御祝着之旨被仰下
一御所様御薨去御年廿三
一上御春秋廿三
一御葬送之儀被仰下
一御法事之儀被仰下
一御位牌之儀被仰下
一御遺物之儀被仰下
一御廟所之儀被仰下
一御追号之儀被仰下
一御喪服之儀被仰下
一御忌服之儀被仰下
一御遺言之儀被仰下
一御遺領之儀被仰下
一御遺跡之儀被仰下
一御遺産之儀被仰下
一御遺金之儀被仰下
一御遺品之儀被仰下
一御遺書之儀被仰下
一御遺状之儀被仰下
一御遺命之儀被仰下
一御遺訓之儀被仰下
一御遺戒之儀被仰下
一御遺誡之儀被仰下
一御遺教之儀被仰下
一御遺言状之儀被仰下
一御遺書状之儀被仰下
一御遺命状之儀被仰下
一御遺訓状之儀被仰下
一御遺戒状之儀被仰下
一御遺誡状之儀被仰下
一御遺教状之儀被仰下

同七日
一東二月八日
一御遺書之儀被仰下
一御遺物之儀被仰下
一御遺領之儀被仰下
一御遺跡之儀被仰下
一御遺産之儀被仰下
一御遺金之儀被仰下
一御遺品之儀被仰下
一御遺書之儀被仰下
一御遺状之儀被仰下
一御遺命之儀被仰下
一御遺訓之儀被仰下
一御遺戒之儀被仰下
一御遺誡之儀被仰下
一御遺教之儀被仰下
一御遺言状之儀被仰下
一御遺書状之儀被仰下
一御遺命状之儀被仰下
一御遺訓状之儀被仰下
一御遺戒状之儀被仰下
一御遺誡状之儀被仰下
一御遺教状之儀被仰下

同八日
一御遺書之儀被仰下
一御遺物之儀被仰下
一御遺領之儀被仰下
一御遺跡之儀被仰下
一御遺産之儀被仰下
一御遺金之儀被仰下
一御遺品之儀被仰下
一御遺書之儀被仰下
一御遺状之儀被仰下
一御遺命之儀被仰下
一御遺訓之儀被仰下
一御遺戒之儀被仰下
一御遺誡之儀被仰下
一御遺教之儀被仰下
一御遺言状之儀被仰下
一御遺書状之儀被仰下
一御遺命状之儀被仰下
一御遺訓状之儀被仰下
一御遺戒状之儀被仰下
一御遺誡状之儀被仰下
一御遺教状之儀被仰下

同九子年
一御遺書之儀被仰下
一御遺物之儀被仰下
一御遺領之儀被仰下
一御遺跡之儀被仰下
一御遺産之儀被仰下
一御遺金之儀被仰下
一御遺品之儀被仰下
一御遺書之儀被仰下
一御遺状之儀被仰下
一御遺命之儀被仰下
一御遺訓之儀被仰下
一御遺戒之儀被仰下
一御遺誡之儀被仰下
一御遺教之儀被仰下
一御遺言状之儀被仰下
一御遺書状之儀被仰下
一御遺命状之儀被仰下
一御遺訓状之儀被仰下
一御遺戒状之儀被仰下
一御遺誡状之儀被仰下
一御遺教状之儀被仰下

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一御帰後中将代参
一両殿并中令参
一正親町帰後中将代参
一高倉殿帰後中将代参
一坊城殿代参

同十廿年
一仙洞御所 御拝院殿并
一両殿并 中令参

一令参 一条殿
一源中納言殿 病気ニ付
一令参 一条殿
一源中納言殿 病気ニ付

天明二寅年
一吉事ニ付当男四殿并
一吉事ニ付当男四殿并
山中御供ニ参

同三卯年
一御対馬守参

同四辰年
一御対馬守参

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

仰付 珍事等有之
[illegible]
一春日祭ニ[illegible]春仲祭ニ[illegible]

同五巳年
一仲冬中旬[illegible]
[illegible]
一[illegible]仰付 [illegible]

一[illegible]
[illegible]
一珍事[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]

同六午年
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一梅宮東門西近[illegible]
一春日社[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]

一大樹家治公去ル八月薨去
[illegible]
一[illegible]

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

九日
一大樹家治公去ル八日薨去
依御告為其
十二日
一関東騒動鎮静ニ付渡之九将監供国
宣下
十日
一昨夜亥刻忠振西国ヨリ及飛脚
関東ヨリ之書状今朝
十日朝
一今日相国公旬儀希今御参内
ル

同七未年
一来ル廿日
霊元院御
崩御ニ付
十三日ゟ
廿日迄人
"
一来ル廿五日根岸
九郎左衛門
廿五日ゟ
廿七日迄
二十日
一来月朔日
宝永一貞享
廿五
一御名加加之
廿四
一南十一月大嘗会
廿四日ゟ
一来ル
廿七日
一来ル
八日
一備前
一今度御
一清原
御事

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

寛政二庚戌年

一御所御造営ニ付御勘定奉行
　石谷清昌
　久世広民
　被仰付候事

一清和院記事ニ書物奉行
　遠山景晋
　被仰付候事

一大嘗祭御所ニ而
　神楽被遊候事

一新嘗祭ニ而
　お供廻田舎侍差出候儀
　先年ハ御免ニ相成候得共
　当年ハ御入用も多分ニ
　相成候ニ付
　御勘定奉行
　御吟味之上
　御免ニ相成候事

十月

一来ル廿日ニ新嘗祭ニ付
　御神楽被遊候事

一御当日参内近習殿上人
　装束之儀ハ
　先年之通ニ而
　可有之事

一御当日参内諸大夫
　装束之儀ハ
　先年之通ニ而
　可有之事

一対陪膳八人　　還幸供奉ニ
〃　殿上陪膳十二人　　還幸供奉ニ
　　仰付
一主殿寮官人武員　　還幸供奉ニ
　　仰付
一掌侍寮官人時服　　還幸供奉ニ
　　仰付
一内侍所次第　　還幸供奉ニ
　　仰付

一〃新内裏南殿橘ノ枝

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一新内裏南殿橘ノ枝
右大一条ヨリ
仰ニ
一水仙ヲ當
此時新内裏ニ
行啓ノ
一院御所ニ
方ヘ
一華文ノ
一華月
一華文ノ
一華月
仰ニ
一華月新
仰ニ
一華文ノ
一華月
仰ニ
一華文ノ
一華月
仰ニ
一華文ノ
一華月

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

同五廿年
一孫晝中山童納言殿御参内
西郊御一童納言殿御退宴五宮殿
童納言殿御参内御参賀
孫王御参賀御退出
千種殿未四刻ゟ
一東宮御元服御入内
初参賀
孫王御参賀御退出
孫王補略宣旨被下
一関東若君様御誕生
被仰出

同六寅年
一准后様立后
仙洞御所ゟ御使
御奉書ヲ以被仰下
一准后様立后
仙洞御所ゟ御使
御奉書ヲ以被仰下
一准后様立后新殿ト行啓
一今日立后 宮中ニ而
一同御所ゟ千及朱雀神事
一村雲右兵衛督春子朝臣

同七卯年
一御条条変名一老
一御元服御礼
一御元服御礼
一鷹司左府公室ゟ

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

十二月廿
一山本義雄ヶ出京
十七日
一九條義秀　鳥山推言　河村若狭
若年寄吉村ヶ補　書長

享和二戌年
一花山院右大将殿御参内
一春日祭ニ付ヶ禁故障ノ儀
ヶ當右衛門督殿へ
御記代参
一酒造米ノ儀ニ付ヶ
御奉行所ヶ
御呼出ニ付ヶ
御請書ヶ
一勅使右衛門督殿
御参内
一酒造米ノ儀ニ付ヶ
御奉行所ヶ
御呼出ニ付ヶ
御請書ヶ

同四子年
一樂吉左衛門
一酒造米ノ儀ニ付ヶ
御請書ヶ
一御所ヶ橋樹若狭守
九ノ大事義ニ付ヶ
御使ヶ
一右清水八幡宮へ
御遷宮

十二月ヶ
一春日社頭遷宮

十二月廿日
一春日社奉幣使発遣之事
一石清水八幡宮
一賀茂上下社
一平野
一稲荷
一松尾
一北野
一大原野
一吉田
一祇園
一今宮
一広瀬
一龍田
一住吉
一廣田
一生田
一長田
一四所
一大和
一大神
一石上
一大倭
一大国魂
一葛木一言主
一金峯山
一丹生
一貴布禰
一気比
一白山
一熱田
一諏訪
一鹿島
一香取
一安房
一洲崎
一伊豆
一三嶋
一浅間
一富士
一気多
一建部
一物忌
一倭姫
一伊勢
一斎宮
一斎内
一神嘗祭
一月次祭
一新嘗祭
一賀茂祭
一石清水祭
一春日祭
一平野祭
一大原野祭
一吉田祭
一北野祭
一松尾祭
一稲荷祭
一祇園会
一今宮祭
一広瀬祭
一龍田祭
一住吉祭
一廣田祭
一生田祭
一長田祭
一園韓神祭
一鎮魂祭
一鎮花祭
一三枝祭
一大忌祭
一風神祭
一相嘗祭
一鎮火祭
一道饗祭
一追儺
一荷前
一御体御卜
一御贖
一御禊
一大祓
一六月晦大祓
一十二月晦大祓
一天長地久御修法
一最勝王経
一仁王経
一金剛般若経
一法華経
一薬師経
一阿弥陀経
一大般若経
一金光明経
一観音経
一普賢経
一文殊経
一弥勒経
一地蔵経
一千手経
一孔雀経
一理趣経
一尊勝陀羅尼
一不動明王
一愛染明王
一五大虚空蔵
一如意輪観音
一聖観音
一十一面観音
一千手観音
一馬頭観音
一准胝観音
一不空羂索観音
一毘沙門天
一吉祥天
一弁才天
一大黒天
一金剛童子
一金剛夜叉
一大威徳明王
一軍荼利明王
一金剛薬叉
一降三世明王
一大元帥明王
一六字明王
一普賢延命菩薩
一地蔵菩薩
一虚空蔵菩薩
一文殊菩薩
一弥勒菩薩
一観音菩薩
一勢至菩薩
一普賢菩薩
一日光菩薩
一月光菩薩
一薬王菩薩
一薬上菩薩
一十二神将
一四天王
一十羅刹女
一五大尊
一七星
一北斗
一九曜
一二十八宿
一三十六禽
一三十六神
一七十二候
一二十四気
一七十五候
一三百六十五日
一三百六十五度
一三百六十五座
一三百六十五坊
一三百六十五人
一三百六十五病
一三百六十五穴
一三百六十五脈
一三百六十五節
一三百六十五骨
一三百六十五筋
一三百六十五肉
一三百六十五皮
一三百六十五毛
一三百六十五髪
一三百六十五歯
一三百六十五爪
一三百六十五指
一三百六十五足
一三百六十五手
一三百六十五目
一三百六十五耳
一三百六十五鼻
一三百六十五口
一三百六十五舌
一三百六十五喉
一三百六十五胸
一三百六十五腹
一三百六十五背
一三百六十五腰
一三百六十五臀
一三百六十五陰
一三百六十五陽
一三百六十五男
一三百六十五女
一三百六十五童
一三百六十五老
一三百六十五僧
一三百六十五尼
一三百六十五道
一三百六十五法
一三百六十五仏
一三百六十五神
一三百六十五天
一三百六十五地
一三百六十五人
一三百六十五物
一三百六十五事
一三百六十五理
一三百六十五道
一三百六十五徳
一三百六十五仁
一三百六十五義
一三百六十五礼
一三百六十五智
一三百六十五信
一三百六十五忠
一三百六十五孝
一三百六十五悌
一三百六十五貞
一三百六十五節
一三百六十五操
一三百六十五行
一三百六十五業
一三百六十五報
一三百六十五因
一三百六十五縁
一三百六十五果
一三百六十五応
一三百六十五化
一三百六十五身
一三百六十五土
一三百六十五国
一三百六十五界
一三百六十五劫
一三百六十五年
一三百六十五月
一三百六十五日
一三百六十五時
一三百六十五刻
一三百六十五分
一三百六十五秒
一三百六十五微
一三百六十五塵
一三百六十五虚
一三百六十五空
一三百六十五無
一三百六十五有
一三百六十五色
一三百六十五心
一三百六十五性
一三百六十五相
一三百六十五用
一三百六十五体
一三百六十五大
一三百六十五小
一三百六十五長
一三百六十五短
一三百六十五方
一三百六十五円
一三百六十五角
一三百六十五辺
一三百六十五面
一三百六十五積
一三百六十五容
一三百六十五量
一三百六十五数
一三百六十五算
一三百六十五術
一三百六十五道
一三百六十五理
一三百六十五法
一三百六十五仏
一三百六十五神
一三百六十五天
一三百六十五地
一三百六十五人
一三百六十五物
一三百六十五事
一三百六十五理
一三百六十五道
一三百六十五徳
一三百六十五仁
一三百六十五義
一三百六十五礼
一三百六十五智
一三百六十五信
一三百六十五忠
一三百六十五孝
一三百六十五悌
一三百六十五貞
一三百六十五節
一三百六十五操
一三百六十五行
一三百六十五業
一三百六十五報
一三百六十五因
一三百六十五縁
一三百六十五果
一三百六十五応
一三百六十五化
一三百六十五身
一三百六十五土
一三百六十五国
一三百六十五界
一三百六十五劫
一三百六十五年
一三百六十五月
一三百六十五日
一三百六十五時
一三百六十五刻
一三百六十五分
一三百六十五秒
一三百六十五微
一三百六十五塵
一三百六十五虚
一三百六十五空
一三百六十五無
一三百六十五有
一三百六十五色
一三百六十五心
一三百六十五性
一三百六十五相
一三百六十五用
一三百六十五体
一三百六十五大
一三百六十五小
一三百六十五長
一三百六十五短
一三百六十五方
一三百六十五円
一三百六十五角
一三百六十五辺
一三百六十五面
一三百六十五積
一三百六十五容
一三百六十五量
一三百六十五数
一三百六十五算
一三百六十五術

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

十九日
一三上右兵衛武春於別湯沐軒
十九日。
一地下諸家伺候社初宮六位
掌典以下稱唯
伺候廿日止ル
廿日
一衆人陪膳ス同社初宮六位
行事中臣葛葉宿禰文雄修理亮
廿日陪膳ス

四五辰年

一来十日。有栖川宮仁親王薨
宣下依之供資文名美雲
四十日。
一来十六日。閑院美仁親王薨
宣下土山武年文名美雲
四日
一宮廣度朝拝出仕
秋冬之分極寒之
砌出仕ニおよばざるの
十二月十日
一武員来年之
閏差俗事之命下
四日
一水口淀都合淀藩村雲宮
来年
去ル酉年
那古屋御入
一名古屋御入国
四六年

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

[illegible]
一事十月廿日 [illegible]
[illegible] 御所 [illegible]
[illegible]
[illegible]
一事十月廿日 [illegible] 一品
[illegible] 親王 [illegible]
[illegible]
一事十二月上旬
[illegible] 御所 [illegible]
[illegible] 御所 [illegible]
[illegible]
一事 [illegible] 宮 [illegible]
[illegible]
一事 [illegible] 宮 [illegible]
[illegible]
一事 [illegible] 宮

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

一岸大納言殿
一水口源矩
一三宅亜肝
一富數實
大原重小雨
御讃岐守
一松宮中納言殿
一春宮大将殿
一西園寺前内府
一吉田社正遷宮神
一石清水臨時祭

同十二年
一事共三ヶ度
一事共三ヶ度
一事共三ヶ度

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

八月十七
一左大将尊孝中将
御饗応
御祓
御装束
御供
十月十七
一寛永十三年二月廿日
御供
十七
一三上戸春水
御装束
御供
一寛永十七年秋
御装束
御供
十二月朝日
一寛永十七年秋
御供
御用
御装束
御供
十二月十七
一寛永十七年
御供
十七

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用

八月廿七日
一御帰依事
一御帰依
一御帰依
一御帰依

文政二年

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

一鷹司関白殿二條右府小納言
参一貫僧ニ而御帰
一二條殿左府九條殿右府大炊御門
殿内府御参賀
一新規ニ御加之御加之
御事始被遊候
九日
一東八の南殿ニ而路橋勅使
参ニ而御祝儀
一参一貫ニ而御帰
十日
一水戸浪真事ニ而
大納言
殿へ
一鷹司左大将殿ニ而春慶事武弘
参朝ニ付御帰
一院ニ而御祝儀
御事ニ付御帰

十日
一東六二日ニ而撫八稚宮誕
宣下
御祝ニ而
村左将監
参内
十二月
一太平ニ而経ニ而
御帰再度ニ而御
御事始

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

文政八年

文政九年

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用